



小林工場長の下、誇りと夢を持って精密作業をこなす女性従業員たち



0.1mmの誤差も許されない作業



福利厚生も整い、女性が働きやすい



工場はいたって簡素

## 工場長が阿部ちゃん？ 絶対見えません(笑)

そしてもう1社。下町ロケットにチャレンジする工場を支える女性が集うのは、小惑星探査機「はやぶさ2」の部品を手がける東京通信機材(本社・大田区)だ。

福島県白河市にある工場では、従業員56人のうち、女性はなんと22人もいる。小林誠工場長(52)が笑顔で語る。

「組立て工程は慎重さと根気が大事。飽きっぽい男性より、女性のほうが向いています」

「ここで働く女性のほとんどが、結婚、出産を経てもまた同じ職場に戻ってくるそう。」

2人の子供のお母さんである渡部美果さん(37)は、勤続19年目のベテランだ。

「会議室にはやぶさプロジェクトの感謝状があったりするから、宇宙の話題は普通に出てきます。直接ロケットの部品に関わっていない従業員も、こうした雰囲気のある会社にプライドを持っています。」

私が担当している監視カメラはダムの水位を監視するため、高い精度が求められます。魂を込めてやっています。はオーバーですが、意識を高く仕事しています」

勤続20年の板倉ひろみさん(40)は「下町ロケット」を欠かさず見ている。

「旋盤などの機材が出てきて、私たちの日常の仕事場と雰囲気が似ている舞台。面白い、親しみを感じます」

そう語る一方で、板倉さんは原発事故についても触れる。

「事故直後は子供がいるので、なるべく県外の野菜を選んでいただけ、今は地元野菜を食べます。風評被害に苦しみながら頑張っている農家の人を見ると、応援したくなる」

福島を元気にしたいという

思いが芽生え、それが仕事にも好影響をもたらした。

「震災前は生産計画を上の方が作っていましたが、震災後は自発的に彼女たちが作るようになりました。もともと意識の高い女性ばかりでしたが、自分たちで考える機会が増え、私は楽をしています(笑)」

そう語る小林工場長は仕事に厳しく、男女の隔たりなく叱る一方、従業員と一緒にお酒を酌み交わすことも。従業員との距離が近いのはドラマの阿部ちゃんと同じだが……。

「いえ、うちの工場長が阿部ちゃんに見えることは絶対ありません(笑)。でも、同じく

らの熱意を感じます。一つの製品ができあがって出荷するときは、みんなと一緒に大喜びしますから(板倉さん)

どうやら小林工場長の存在も、女性従業員が長年働き続ける要因の一つのようだ。



感謝状を前に板倉さん(左)と渡部さん